

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスSA-N-PO庚午教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 22日		～ 令和7年 2月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 22日		～ 令和7年 2月 2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	新しい事業所ということもあり、前例などがなく、色々なことに挑戦していくことができる。	親子イベントを企画し、非日常的な体験をすることができる機会を作っていくようにしている。今年度は田植え、稲刈りができる法人内のファームに行った。	利用しているお子さまだけではなく、ご家族（ごきょうだいを含む）で楽しむことができるイベントを企画していく。色々な経験、体験をすることができるようにイベントの内容を考えていく。
2	市民農園と契約し畑で野菜を育てたり、管理栄養士の方と業務提携を結んだりすることで、食育に対してのアプローチが強みになる。	野菜がどのように育つかを目にしたり、実際に育てた野菜を調理することで食に対して興味を持つようにしている。また、旬の食材を取り入れたりするようにしている。	保護者の方向けに管理栄養士の方の研修を開催したり、クッキングの機会を増やす、様々なメニューに取り組んでみるなどの工夫をしていく。
3	支援員一人一人が今までに色々な経験をしてきており、それぞれの得意分野で活動プログラムを組み立てることができる。	季節の行事や工作、イベントなど様々な視点から考えるようにしている。	それぞれの考えた活動プログラムを話し合い、それぞれの活動がばらばらなものではなく、関わり合いが持てるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援員一人一人の知識、経験に差があり、一人一人がより高い専門性を持って支援にあたることができていない。	新しい事業所ということもあるが、支援員の入れ替わりなどがあり、事業所としての支援に対する共通理解を得ること、統一した支援を行うのに時間がかかる。その話し合いをする時間の確保が難しい。	外部の研修を積極的に受ける機会を設けたり、法人内で研修を受けることができるようにする。（法人内の研修については令和7年度から始まる予定。）また、事業所内で相談できるように話し合いの時間を増やす。
2			
3			